

現代の芸術哲学 読書案内①

【原典】 講義で触れた芸術家や哲学者の原典を読むなら、まずはこのあたりから。











アンリ・ベルクソン『思想と動くもの』河野与一訳、岩波文庫、1998年ベネデット・クローチェ『美学綱要』細井雄介訳、中央公論美術出版、2008年ホセ・オルテガ・イ・ガセット『芸術論集』神吉敬三訳、白水社、1970年ヴァルター・ベンヤミン『ベンヤミン・アンソロジー』山口裕之編訳、河出文庫、2011年アンドレ・ブルトン『シュルレアリスムと絵画』瀧口修造ほか監修、人文書院、1997年クロード・レヴィ=ストロース『仮面の道』山口昌男ほか訳、新潮社、1977年テオドール・W・アドルノ『不協和音』三光長治ほか訳、平凡社ライブラリー、1998年ロラン・バルト『現代社会の神話』下澤和義訳、みすず書房、2005年ジョルジョ・アガンベン『中味のない人間』岡田温司ほか訳、人文書院、2002年フェリックス・ガタリ『カオスモーズ』宮林寛ほか訳、河出書房新社、2004年エドゥアール・グリッサン『多様なるものの詩学序説』小野正嗣訳、以文社、2007年













【叢書】 現代における芸術の諸問題を概観したいときは、こちらの研究叢書に。

『岩波講座 20世紀の芸術』全9巻、岩波書店、1988-1990年

第1巻『芸術の近代』/第2巻『芸術と社会』/第3巻『芸術の革命』/第4巻『技術と芸術』/第5巻『言語の冒険』/第6巻『政治と芸術』/第7巻『現代芸術の状況』/第8巻『現代芸術の焦点』/第9巻『芸術の理論』

『モダニズムの越境』全3巻、人文書院、2002年

第1巻『越境する想像力』/第2巻『権力/記憶』/第3巻『表象からの越境』

『表象のディスクール』全6巻、東京大学出版会、2000年

第1巻『表象――構造と出来事』/第2巻『テクスト――危機の言説』/第3巻『身体――皮膚の修辞学』/第4巻『イメージ――不可視なるものの強度』/第5巻『メディア――表象のポリティクス』/第6巻『創造――現場から/現場へ』



現代の芸術哲学 読書案内②

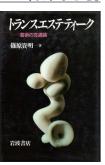
【研究】 現代芸術の思いがけない多様さとその根底にある思想をさらに深く理解するには、以下などを。











①多木浩二『シジフォスの笑い』、岩波書店、1997年

【西館4F 723.3/K】

②湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー』、水声社、2004年 【西館4F 719.023/B】

現代芸術の深淵を覗き込める2冊。①はアンゼルム・キーファーというドイツの芸術家を、 ②はクリスチャン・ボルタンスキーというフランスの芸術家の作品を追いかけながら、死や 暴力などの日く言いがたい体験の記憶と忘却をめぐって、芸術でしか表現できない人間の無 意識的な思考のなかに踏み込んでいきます。

③今村仁司編『トランスモダンの作法』、リブロポート、1992年 【西館4F 104/T】

- ④篠原資明『漂流思考』、弘文堂、1987年/講談社学術文庫、1998年【西館4F 104/S | 701.1/S】
- ⑤ 『トランスエステティーク』、岩波書店、1992年

【西館4F 701.1/S】

⑥西村清和『現代アートの哲学』、産業図書、1995年

【西館4F 701.1/N】

今日の世界の母胎になった「近代」という時代の基本的特徴を確認しながら、そこから生ま れてきた新たな哲学と芸術の姿を概観できる4冊。自由で柔軟で豊饒な思考のための問題集。

⑦宮川淳『絵画とその影』建畠晢編、みすず書房、2007年

【西館4F 704/M】

⑧田中純『イメージの自然史』、羽鳥書店、2010年

【西館4F 704/T】

⑨今福龍太『野性のテクノロジー』、岩波書店、1995年

【西館4F 702.06/I】

⑩港千尋『記憶』、講談社選書メチエ、1996年

【西館4F 701.4/M】

「記憶」「異文化接触」「自然科学」「技術」「政治表象」など、さらに多様な視座から芸術に迫 る手引きとなる4冊。ぜひとも人間の想像力と創造力の途方もない広がりを摑むきっかけに してもらえたら、と思います。









